

ぴーちっこ

発行 社会福祉法人 聖友ホーム
聖友乳児院（乳児院）
聖友学園（児童養護施設）



目次	●コラム「聖友ホームの新たな取組み～家庭学級～」	2
	●この指とまれ「いきいき子育てセミナーの声」	4
	「フレンドホーム制度について」	5
	●ふわふわ「乳児院秋の行事」	6
	●もぐもぐ「離乳食食べさせ方のコツ！」	7
	●すくすく「聖友学園松坂自立援助基金」	8
	●「ありがとうございました」	9

〒166-0001 杉並区阿佐谷北 3-28-19

聖友乳児院

TEL 3338-1849 FAX 3338-4679

聖友学園

TEL 3338-1844 FAX 3338-1894

Eメール（共通） seiyugakuen@nifty.com

聖友ホーム（聖友乳児院・聖友学園）

の新たな取り組み〜家庭学級〜

「いきいき子育てセミナー」



今回は、聖友ホームとしての新たな取り組みについてお伝えしていきます。その取り組みは、「家庭学級 いきいき子育てセミナー」という名称で平成二〇年度五回、二十一年度二回、無事に終了しました。ご参加いただいた皆様、雨が降った回にもお子様を連れていらしてくださった保護者の皆様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。実は、初めてのことでしたから足を運んで下さる方がいらつしやるのかとの不安もありました。ご参加いただいた方々が励みとなり私たちの不安は消され、自信へつなげることができました。本当にありがとうございます。



では、ここに至る道のりをお伝えしながら、まずこのような取り組みにかける私たちの想いをお話しようと思います。

ご存知のとおり聖友ホームは聖友乳児院と聖友学園という二つの施設の総称です。この二つの施設は隣同士であるものの、建物が別々ということもあり、日常的に共に活動する機会はそうおおくはありませんでしたが、ここ数年、両施設が力を出し合って一つの取り組みを行なっていきたいと考えておりました。取り組みを共に行なっていく中で、お互いをより知り合うこと、知識を共有すること、また時には刺激しあい、そして助け合うそんな場面が増えることでお互いに施設の力を伸ばしていこう。そして聖友ホームが国内では少ない乳児院と養護施設を併設しているということからくるメリットを再発見し、意識することで、一つの施設ではできないことを一人一人が経験し人との関わりの幅を広げ、結びつきを強くして、より質が高く温もりのあるホームとなっていきたい、という想

いが一つありました。また、子どもを取り巻く環境が大きく変化しています。

急激な変化に対応していくためには、地域の方々と深く結びつきながら子育てをしていくことが大切で、子ども達が健やかに成長していける環境を手をとりあつて作っていききたいという想いです。今まで、聖友ホームは地域の方々にたくさんの手差し伸べていただきここまで歩んできました。阿佐ヶ谷の地に移ってきて、六十四年、思い返すと力を貸していただくことが殆どでした。これからは私たちができる何かを見つけ私たちのほうから手を伸ばしていくことで、地域の方々と絆を強くしていきたいと望んでいます。

こんな二つの想いをかたちにしていくためにどんな事をしていけば良いのかについて検討してきた結果として、学園のホールを使ってセミナーを年間五回開催することとなりました。

具体的にどんな内容を地域の方々が求めているのかについては、アンケートを実施しました。保育園・学校の保護者の方、ご協力ありがとうございます。回答には、子育てそのものにつ

いて、例えば育児やしつけ、食育のこ
となどがありました。また子育てその
ものというより、子育てをしていく中
で子どもや人との関わりに不安を感じ
ることや迷う時にどのような対処して
いったらよいか、といった記述もあり
ました。どうすれば皆様の声に届いて
いけるのかを話し合っている中で、一
人の職員が公園で出会ったお母さんの
こんな話をしました。

そのお母さんはベンチに座り、足元
で遊ぶ子どもをボーッと見つめていた
そうです。そのお子さんに声をかける
うちにお母さんとお話が始まりました。
しばらく話すうちに、最近引越
してきたばかりで、相談に乗ってくれ
るひともいないこと、また今の子育て
にも自信がなく、お腹にいる次の子ど
もを産むことに対して不安だと話しな
がら、そのお母さんは目に涙を浮かべ
たそうです。相談できる場所を案内し
たこと、話を聞いたことで表情がやわ
らいだそうです。何かのきっかけを見
逃さずに話をしてみることで、つまりコ
ミュニケーションをとることで、不安
や迷いが減ったのだらうということが、
その話から伝わってきました。そこで

コミュニケーションについてのセミナ
ー「コーチング」を年三回開催するこ
とにしました。

そして後の一回は消防署に依頼して、
地域のつながりが大切だと言われる災
害時の対応や子どもの事故への対応に
ついての講義と実習、そして一回は是
非自分たちの中から講師をしたいと考
えて「リトミック」を企画しました。
こうして年五回の計画も立てることが
でき、試行錯誤の中で無事終了するこ
とができました。

初めての試みでしたが、参加された
皆様やポスターやチラシの配布にご協
力くださった皆様に支えられて無事終
了できたことは、私たちの大きな喜び
です。また、大切なお子様をお預かり
することができたのは、私たちが信頼
してくださっているのだと思つて大変
励みになりました。参加してくださっ
た方には、毎回アンケートにご協力的
いただき感謝しております。いろいろな
ご意見や励ましに、二十一年度に向け
たエネルギーをいただきました。

二十年度の反省も踏まえ、今年度も年



五回の「いきいき子育てセミナー」の
開催を企画しております。一回目は好
評であった谷口先生にお願いしてのコー
チング、二回目は消防署の協力を得
て起震車体験などを実施しました。



今後の予定

- 一月 離乳食をテーマに乳幼児の
栄養管理について学びながら
情報交換
- 三月 コーチング

私たちは、このセミナーを通して地
域の皆様との絆を深め、つながりを大
切にしたいと考えております。近々開
設するホームページでもご案内しま
いりますので、是非お時間を見つけて
ご参加ください。

今年度はどのようなセミナーをおこなうのですか？

- ・ コーチングセミナー・・・講師にコーチ・セフンピース代表 谷口貴彦氏をお招きした体験型セミナーです。子ども達への関わり方を中心とした子育てへのヒントが多々隠されており講評いただいております。
- ・ 防災セミナー・・・今年度は起震車体験を予定しています。
- ・ 親子でリトミック・・・昨年度大人気であった乳幼児向けの親子参加型セミナーです。

参加して今後やってみたいこと
(コーチングセミナーに参加された皆様の声より)

- ・ 子どもに対する接し方(特に叱り方)を本日より変えてみようと思いました。
- ・ 他の子どもと比較することなく、今あるものを伸ばすことで、わかるを輝かせようと感じました。
- ・ 相手と会話をする時の言葉や仕草に気をつけてみます。

★スタッフからの一言、感想★

- ・ 子育ては 24 時間、365 日休むことなく続くもの。子育てで真っ最中のお母様、お父様の一息つける場所になればいいなと思っています。
- ・ 地域の方々の喜んで頂いている様子を見て今後も一層良い場となるように考えていきたいと思っています。阿佐ヶ谷に子どもの笑顔、パパママの笑顔があふれますように。
- ・ セミナーに参加して下さったお母様が近所で出会った際にお声をかけて下さるようになり、地域とのつながりを実感するようになりました。
- ・ 直接お母様方と子育てについて色々な事を話す事ができました。この貴重なご意見を今後の子育て支援につなげていきたいと思っています。

このゆびとまれ
 今回は、ここ数年聖友ホームで力を入れて取り組んでいる「いきいき子育てセミナー」についてご紹介します。

このゆびとまれ 


フレンドホーム制度について

 **フレンドホームとは？**

様々な事情により家庭で生活できない子ども達の多くは、乳児院や児童養護施設（以下「施設」という。）で生活しています。


施設で生活している子どもを、学校などがお休みの期間に（夏休み、冬休み、土曜日、日曜日、祝日など）、ご都合の良い数日間お預かりいただくのがフレンドホームです。

家庭での生活体験は今後の子どもの成長においてとても大切なことであると考えます。しかし、施設内での家庭的な生活体験だけでは不十分なところが多いのが現状です。

 **子どもとの交流について**

フレンドホームをご希望の方はまず施設に直接ご相談の上お申し込みいただきます。登録後、施設から子どもの紹介をさせていただきます。

ここからが交流の始まりです。最初は施設内や施設周辺で子どもと話をしたり、一緒に遊ぶことから始めます。この関わりの中で子どもは、「フレンドホームさんは安心して一緒にいられる存在である」ということを感じます。その後、日帰りの交流から少しずつ交流の期間を長くしていきます。また、幼稚園・各学校の行事（入学式、卒業式、発表会など）、施設の行事などもご案内しています。

 **フレンドホームさんとの思い出**

ここで、実際にフレンドホームとの交流がある子どもに話を聞きました。

○フレンドホームさんのおうちではどういったことをしたのかな？

→算数の勉強を教えてもらったり、自転車の練習をした。おじちゃんの運転する車でスーパーにも行ったよ！

○何かお手伝いはしたのかな？

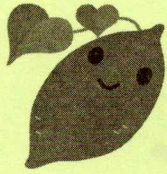
→ごはんの配膳の手伝いをした。作るのはおじちゃんやおばちゃんがやってくれたよ。おじちゃんもおばちゃんも料理が上手なんだよ。

○一番楽しかった思い出は何かな？

→公園でおばちゃんが作ったお弁当を食べたこと。

このように、家庭的な生活を少しでも多くの子どもに体験させてあげたいと思っています。

興味を持たれた方は聖友学園にご連絡ください！！



ふわ ふわ



お芋掘り♪

☆聖友乳児院の秋の行事をご紹介します☆

☆院内栽培で肥料をたくさんあげて、お芋が大きく育ちました。



おいも
あるかなあ
~?!



おおきいのとれたよ!!



楽しい運動会♪

☆大勢のお客様と一緒に、元気いっぱい運動会を楽しみました。

どれに
しようかなあ~



どんな森が
出来るかな!?



りゅうしょう ~知っているも損はない~ 食べさせ方のコツ!

離乳食が始まり、1品2品と品数が増えていくに連れてお母さん達の「困った!!」も増えていきます。

「どうしたらペーストを食べてくれるかしら…」 「ペーストから刻みにUPしたけど、ゼンゼン食べてくれないわ…」

「スープ(果汁)をあげるとむせちゃうみたい…。合わないのかしら…」 「なんでも食べてくれるけどきちんと噛んでるのかしら?」

etc....

『離乳食期は、味覚を育て きちんと咀嚼する事を覚える大切な時期。』と育児書には書いてはありますが、実際どのように食べさせたら良いのか わかりませんよね。

…困ったり、どうしたら良いか分からなくなってしまった時は 初めに戻る事が問題解決の糸口となります。

①『離乳食期のポイント』

さじ部の底面が唇に沿った曲面のスプーンを用意します。(出来れば柄の長いものが良いです。)

食べ物、(果汁やスープ)をすくい、お子さんの下唇に乗せるかんじに置きます。

上唇で巻き取るような唇の使い方が大事ですので、待ってあげましょう。

★ポイントは【上唇の動き】です。

上唇で巻き取る様に少しずつ口の中にはいった食べ物は、舌が(歯がはえたら奥歯にあたる)右から左、若しくは左から右へと運び、【歯茎でつぶす・噛む】そして舌が食べ物を巻き取り、飲み込む ようになります。

★ポイントは【舌の動き】です。

ペーストから刻みにアップしたときに お子さんが食べなくなるのは、口の中に入った固まりを初めて『異物』と感じてしまうからです。様子見ながらひとかけらからあげてみましょう。それから いきなり量を増やさず少しずつあげましょう。

(食事が進み、早く食べてもらいたい時にも有効なのが【少量づつ】あげることです。)

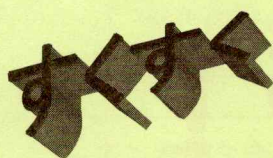
「早く食べさせたい」という気持ちから 口の中に押し込んだり、しゃくり上げるような食べさせ方では、お子さんは『丸呑み(噛まない)』しかできず、【よく噛む・味覚が育つ】ことができません。

★ポイントは【少量づつ食べさせる】です。

ミルクをあげる時の様に、お子さんの顔をみながら 優しく声を掛け お子さんのペースに合わせながらあげましょう。だっこする、椅子に座らせるなどし、身体が左右に動かない様にします。身体が左右に動いてしまうと むせる=誤飲 につながりますので、お子さんをきちんと座らせることが大切です。

★ポイントは【姿勢を保つ】です。

…… 以上いくつかのポイントをあげましたが、一番のコツは【ゆったりと楽しく愛情こめて食べさせる】ことです。ポイントを踏まえて、自然の恵み、美味しい物を食べさせてみませんか?



「聖友学園松坂自立援助基金」

～児童養護施設の子どもたちに自立応援団を！～



児童養護施設にいる子どもたちは 18 歳を過ぎると施設を出て、ほとんどの場合自立し自活をすることになります。就職したり、大学や専門学校へ進学することになりますが、その第一歩からいろいろな金銭的な負担を負わねばなりません。

いきなり社会に出されて、果たして子どもたちはまともに自立し、生きていけるでしょうか。すぐ押し寄せる生活苦から手っ取り早くお金になる仕事につき、やがて自立に向かって抱いていた夢も希望も断たれ社会からドロップアウトしてしまう、こんな子どもたちを見るのは忍びないのです。

子どもたちがなんとか社会に適応し、つつましくても自立していけるように・・・。

聖友学園ではこういった自立していく子どもたちに少しでも役立つために「松坂自立援助基金賛助会」を募っています。今までにこの資金で進学資金、自立資金を助けられた子どもたちは数多くいます。

子どもたちの自立のための資金援助にご協力ください

「聖友学園松坂自立援助基金」とは？

昭和24年上野・松坂屋で保護された松坂國雄さんは児童養護施設で育ちましたが、その後も心身に様々な苦労を体験し、昭和58年1月病に倒れ、独身のまま36歳の短い生涯を終えました。彼の心情を理解し支えてきた人々が集まり、無償の力を合わせ彼の墓を建立し、残額を児童養護施設の児童の奨学金、独立資金を寄付してくださいました。寄付金は彼の足跡及び彼を支えてきた人々の意を汲み取り「聖友学園松坂自立援助基金」とし、永く児童の自立を援助する資金として活用されています。

「聖友学園松坂自立援助基金」賛助会とは？

この基金の意義をご理解いただき、基金の拡充にご賛同いただける方を会員として、会費納入をもって児童の自立支援に協力することを目的とする会です。

会費：1ヶ月200円 年額2400円

会費納入：毎年7月年額を郵便振込み(事務局より振込み依頼書送付)

収支報告：納入会費は年度末に一括して「基金」に寄付。「基金」の収支は本ぴーちっこに掲載。

詳しくは聖友学園事務所までお問い合わせください。

難波節子、副島雅之、林あき子、杉山高一、角田すへ、峰岸恵美子、林泰敬、内藤郁子、吉田寛子、藤田理、門司一徹、平田雅彦・榊原裕子、古原靖久、岩本陽子、末松知紗、仁平雅一、いうらゆうだい、テレビ朝日福祉文化事業団、杉並区野の花会、セカンドハーベストジャパン、株式会社三菱東京UFJ銀行CSR推進室、有限会社スーパースタイル、株式会社ジャパンエナジー、日本鏡餅組合、フィリップモリスジャパン株式会社、株式会社プレナス、社団法人東京馬主協会、東京第三友の会 阿佐ヶ谷方面、全国シャーマン共同組合、毎日新聞東京社会事業団、ワールドメイト東京エリア本部、ドレスナーオンラインオート証券会社東京支部、ビクターエンタテインメント、ヤマザキ製パン従業員組合、北村製作所、東セロ株式会社、メリルリンチ日本証券株式会社、オリンパス労働組合、フィールズ株式会社 代表取締役 山本英俊、内海哲也ランドセル基金

△パースデーフレンド▽

福山はつ子、上田和子、佐藤美彌子、原あや子、竹村明子、細田晴美、二宮徳子、朝倉良江、丸翠、清水敦子、内山眞規子、伊東令子、松沢勝子、茂手木政則、茂手木暁子

△招待▽

NPO法人スマイルハートチルドレン(野球招待)、大吉(焼き鳥招待)、Jリーグ選手協会(GKサッカー教室)

1 6 6 - 8 7 9 0

料金受取人払

杉並支店
承認

4119

差出有効期間
平成24年1月
9日まで
(切手不要)

東京都杉並区阿佐谷北3-28-19 聖友学園

聖友ホーム「ぴーちっこ」係 行

